405652

セット品番

FT930HU〈一般地仕様〉

アンダーシンク浄水機能付センサー水栓

クリンスイ 据付説明書

給水一次側配管との接続および検査は管工事業者に依頼してください。
器具をシステムキッチンに取り付ける作業は、システムキッチン取付設置業者で実施することができます。

●据付される方へお願い
この器具を安全に正しく設置いただくために、「据付説明書」を必ずお読みください。

1．安全上の注意

ここに示した安全上の注意事項は、お守りいただかない場合、重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

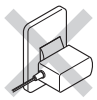
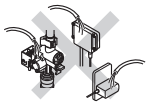
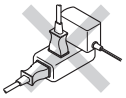
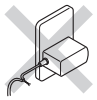
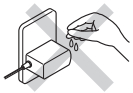
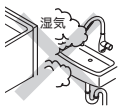
●次の表示は、表示内容をお守りいただかず、誤った取り扱いをした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠ 警告	誤った取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度を示しています。
⚠ 注意	軽傷を負ったり、周辺の家財に損害を与える可能性のある内容を表します。

●次の絵表示区分は、お守りいただく内容を説明しています。

禁止	してはいけない『禁止』内容を表します。	分解禁止	してはいけない『分解禁止』内容を表します。
接触禁止	してはいけない『接触禁止』内容を表します。	水場での使用禁止	本器を風呂、シャワー室で使用すると、漏電によって感電や発火の可能性を表します。
指示	必ずしてほしい『指示』内容を表します。		

⚠警告

禁止	**●がたついているコンセントは使わない。** 火災や感電の原因になります。	
	●湯水および浄水電磁弁ユニットや配線接続部、ＡＣアダプター、制御ボックスには水をかけない。 火災や感電の原因になります。	
	●指定する電源(AC100V 50/60Hz)以外では使用しない。 火災の原因になります。	
	●ＡＣアダプターやコードを傷つけたり、加工(切断・継ぎ足し)したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っぱったり、重いものをのせたり、挟み込んだり、加熱したりするようなことはしない。 火災・感電・ショートの原因になります。	
	●コンセントや配線器具の定格を超える使いかたはしない。 たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。	
	●コードの加工(切断・継ぎ足し)を行わない。 火災の原因になります。	
	●トイレ用洗剤・住宅用洗剤・漂白剤・ベンジン・シンナー・トイレ用ウェットティッシュ・クレンザー・クレゾールを使用しない。 火災・感電・ショート・故障の原因となります。	
分解禁止	**●水栓本体、ホース、浄水カートリッジは分解したり、修理・改造はしない。** 破損してやけどやけがをしたり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。また、火災や感電の原因になります。	
接触禁止	**●濡れた手でＡＣアダプターを抜き差ししない。** 感電の原因になります。	
	●雷が発生しているときは、ＡＣアダプターに触れない。 感電の原因になります。	
水場での使用禁止	**●浴室などの湿気の多い場所には設置しない。** 故障や感電のおそれがあります。	

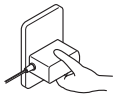
⚠警告

指示

●**水道水の水質基準に適合した水を使用する。**
温泉水・井戸水など異物を多く含む水には使用しない。
部品の内部腐食により、漏水、発火、ショート、感電の原因になったり、体調を損なうおそれがあります。

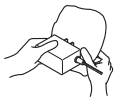
●**制御ボックスは水がかからない場所に設置する。**
火災や感電の原因になります。

●**ＡＣアダプターを抜くときは、必ず本体を持って引き抜く。**
コードを引っぱるとＡＣアダプターやコードが傷んで、火災や感電の原因になります。



●**ＡＣアダプターは根元まで確実に差し込む。**
火災や感電の原因になります。

●**ＡＣアダプターの刃などに付いたほこりは取り除き、根元まで確実に差し込む。**
火災や感電の原因になります。
ＡＣアダプターを抜いて、乾いた布で拭いてください。



⚠注意

禁止

●**湯水を逆に配管しない。**
水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

●**この商品を構成する部品以外の取り付けや、部品の取りはずし等の改造はしない。**
器具が破損し、やけど・けがをしたり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。

●**配管などの解氷のため、解氷機を使用する場合は、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しない。**
通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。

●**水栓やシャワーヘッドに強い力や衝撃を与えない。**
水栓やシャワーヘッドが破損し、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。

●**めっき部品は、ぶつけたり落としたりしない。**
鋭利な物や硬い物を当てないでください。めっきの表面が割れてけがをするおそれがあります。

●**センサー面を傷つけないようにする。**
器具が破損したり、誤作動するおそれがあります。

⚠注意

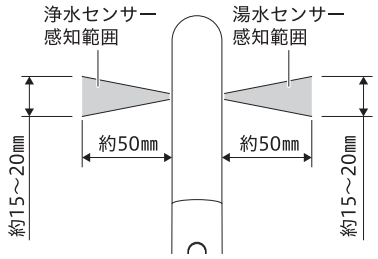
禁止	**●吐水口を手やふきんなどで触れたり、シャワーヘッドを水中に没させない。** 雑菌が繁殖するおそれがあります。
	●配管接続部をテーパねじに接続しない。 テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。
指示	**●給湯温度は60℃より高温で使用しない。** 給湯器の給湯温度は60℃以下にして使用する。 60℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。
	●配管工事はすべて建築基準法、水道法、各地域の条例に準じて行う。
	●ストレーナの清掃は止水弁または元栓で必ず湯水を止めてから行う。また、操作の際は湯側止水栓が熱くないことを確認する。 高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。
	●ホーロー、天然石のシンク天板に穴を開ける場合は、キッチンメーカーに相談する。 カウンターの適合穴径は35～39ｍｍ、天板厚は5～25ｍｍです。 無理に穴を開けて取り付けると、家財を傷付けるおそれがあります。 35～39mm　天板　5～25mm
	●めっきの表面が割れた場合は使用しない。 けがをするおそれがありますので、ただちに使用を停止し、新しい部品に交換してください。
	●止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にする。 点検ができないと万一水漏れ発生時には発見が遅れて家財などを濡らすおそれがあります。
	●小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介する。 高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。 ステンフレキ管等
	●凍結が予想される際は、少量の水を出しておくか配管に布を巻くなどして凍結を防止する。 凍結を防止しないと部品が破損し、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。 パリッ

2．給水・給湯・電源条件

使用電源	AC100V　50／60Hz
消費電力	待機時　0.2W以下
	使用時　5.4W以下　(最大値　13.9W以下)
使用流体	１～ 60℃の水道水および飲用可能な井戸水(氷結、ゴミ等の混入が無い事)
使用環境	温度　１～40℃
	湿度　90%以下
給水圧力	最低必要水圧：0.1MPa(動水圧)
	最高水圧：0.75MPa(静水圧)
電源コード長さ	1.8m
感知距離	約50㎜(白紙：約60㎜)　※感知範囲は下図を参照してください。

①使用水圧〔A=(給湯器の最低作動水圧)+(配管圧力損失)〕
〔給湯・給水圧力〕最低必要水圧：A+0.1MPa(動水圧)、最高水圧：0.75MPa(静水圧)
②誤操作などによるやけど防止のため、給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
③給水圧力が0.3MPaから0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
④給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。
⑤やけど防止のため、給湯器の給湯温度は60℃以下で使用してください。
⑥給湯器からの配管は抵抗を少なくするため、最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
⑦使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
⑧取り付け後の流量調節や手動弁操作・保守点検のために、必ず止水栓を取り付けてください。
⑨使い勝手や性能発揮のため、流量調節をしてください。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損のおそれがあります。
⑩取り付け後、手動弁操作や水抜き操作のため、必ず点検口を設けてください。
⑪万が一の危険防止のため、電源の一次側に１か所漏電遮断器を設置してください。
⑫電気工事は必ず電気工事店に依頼してください。
⑬コンセントはＡＣアダプターの定期的なお手入れが行えるような位置に設けてください。
⑭本製品は、改造(構成する部品以外の取り付けや部品の取りはずし、止水機構を持った市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
⑮水道水の水質基準に適合した水を使用する。
⑯通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。
⑰センサーの表面を傷つけないように十分注意してください。
⑱インバーターや赤外線を用いた他の機器により誤作動することがあります。
⑲直射日光が当たらないところに設置してください。

[感知範囲]



3．梱包部品

最初に下記内容部品がそろっているかご確認ください。

水栓本体　1本

ホースストッパー　1個

ワイヤーステッカー　10個

湯水電磁弁ユニット　1個

ホースガイドA- B　各1個

ACアダプター　1個

クイックファスナーロック　3個
クイックファスナー　3個

ブッシュ　1個

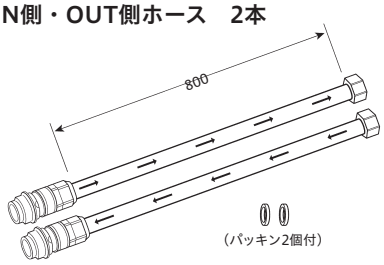
制御ボックス　1個

カプラユニット　1個

逆止弁ソケット　2個
（パッキン 2個付）

浄水電磁弁ユニット　1個
（パッキン 1個付）

IN側・OUT側ホース　2本



浄水ジョイントセット
浄水ジョイント　1個
保護キャップ　1個
クイックファスナー　1個

ノズル取り外し工具　1個

浄水カートリッジ 1個
（HUC17021）

架台　1個
（サラビス4本付）

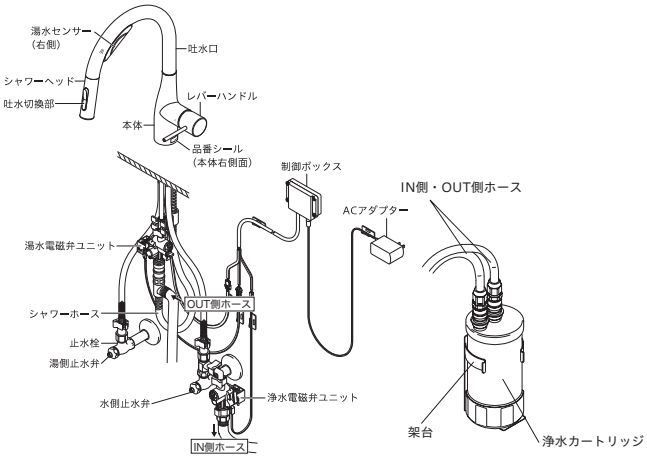
スタートアップガイド
説明書入り袋　1式
・取扱説明書
・据付説明書
・保証書／お知らせコールカード
・ホース用結束バンド（ホース用 小1本）
・両面テープ 2枚
・バイパス管 1個

4．器具の据付

※管工事業者に依頼してください。

4-1．据付場所の選定

- 水栓本体は、シンク下で他の配管にぶつからない場所に設置する。
- 水栓本体は、止水栓から給水、給湯ホースで接続できる場所に設置する。
- 架台は、浄水カートリッジを手前に引き出して容易に交換できる場所に、ビスや両面テープで重さを支えられる場所に設置する



4-2．水栓の据付方法

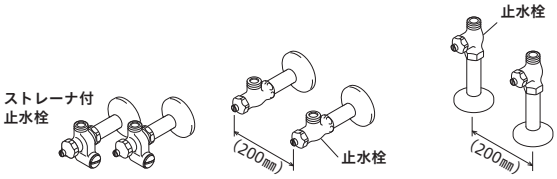
①給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内のゴミなどを取り除いてください。

②止水栓の取り付け

給湯管と給水管の間隔は200mm程度で取り付けます。

水受けタンクまたはトレーを設置する場合は、水受けタンクまたはトレーの寸法をご確認のうえ取り付けてください。止水栓はストレーナ付が最適です。

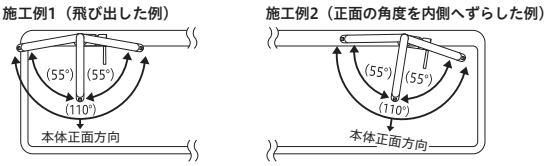


③本体の取り付け位置について

取り付け位置によっては吐水口先端がシンクから飛び出す場合があります。(施工例１)

正面位置をシンク内側へずらして調整することは可能です。(施工例2)

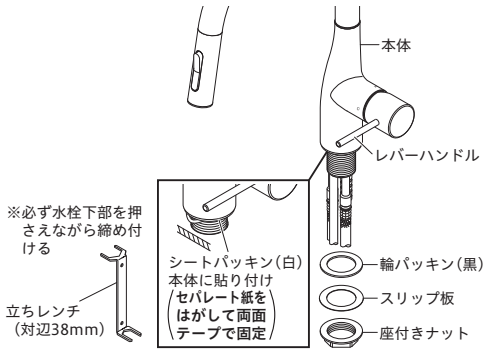
位置調整は、ブレードホースが施工できる範囲で行ってください。



④本体の固定

④-1 取り付け穴周囲の汚れを取り除いたあと、本体に貼り付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがしレバーハンドルが正面右側にくるように本体を差し込みます。

④-2 下図の順にパッキン類を差し込み座付きナットで締め付け本体を完全に固定します。



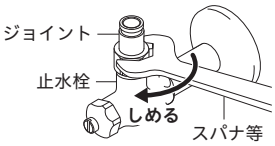
⚠注意

- セパレート紙は必ずはがしてください。
  （セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります）
- レバーハンドルや吐水口をもって締め付けしないでください。（破損して水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります）
- ゆるみがないように確実に締め付けてください。（ゆるみがあると水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります）

⑤止水栓との接続

湯側

⑤-1 ジョイントを止水栓に接続します。

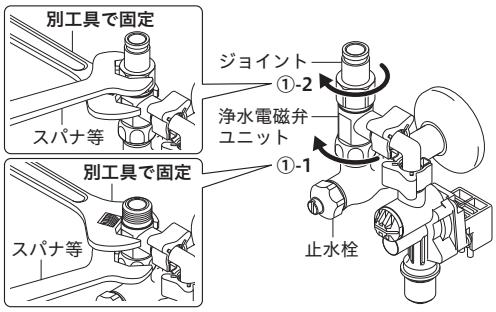


水側

⑤-1-1 浄水電磁弁ユニットを止水栓に接続します。

⑤-1-2 ジョイントを浄水電磁弁ユニット(ストレーナが正面を向くように)に接続します。

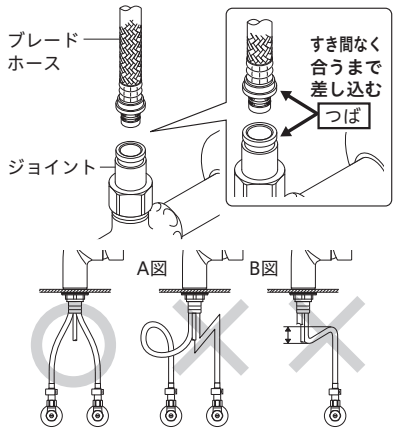
【お願い】袋ナットおよびジョイントを接続する際は、浄水電磁弁ユニットが動かないように、別工具で固定してください。



⚠注意

- 浄水電磁弁ユニットは必ず水側の止水栓に取り付けてください。
  (湯側に取り付けると高温の湯が出てやけどをするおそれがあります)
- 接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約20N・mです。
  (締め付け不足や締め付け過ぎますと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- 薄肉の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。
  (パッキンが切れ水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- 止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。
  (固定されていないとブレードホースが抜け水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

⑤-2 ブレードホースのつばと、ジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

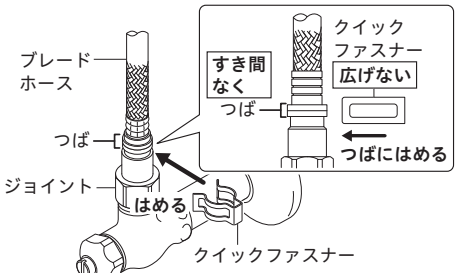


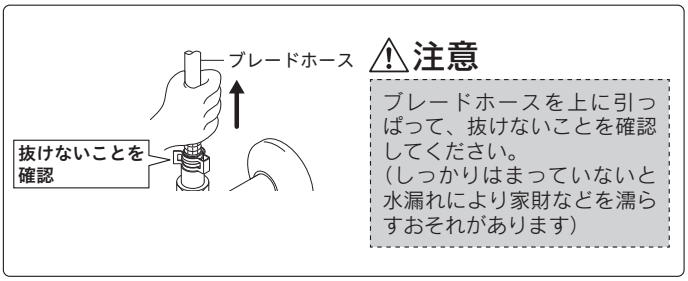
⚠注意

- ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください(A図)。
  (亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- 上下戻り配管はやめてください(B図)。
  (亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。
  (摩耗による外傷でホース性能の劣化の可能性があります)

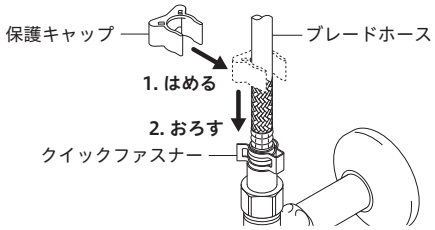
【お願い】ブレードホースは切断しないでください。

⑤-3 クイックファスナーをブレードホースとジョイントのつばにはめます。





⑤-4 クイックファスナーに保護キャップをはめます。**この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。**

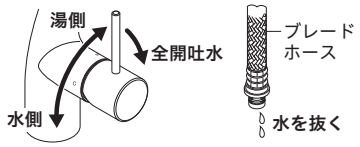


一度はずしたブレードホースを再接続する場合

- 湯水電磁弁ユニットのクリップをはずし、手動弁を右側いっぱいに回します。(※)
- レバーハンドルを全開吐水状態で湯水に振り、湯側・水側それぞれのブレードホース内の水を抜いてください。
- 混合位置でレバーハンドルを開にした状態で、「**⑤止水栓との接続**」に従いブレードホースを接続してください。
- 手動弁を左側いっぱいに回し、クリップを取り付けます。(※)

⚠注意

再接続の際は、ブレードホース内の水を抜いてから接続してください。
(正しく施工できなかったり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



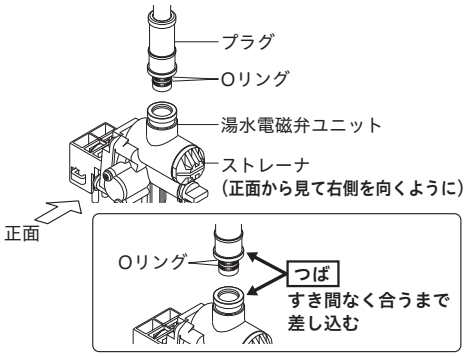
※手動弁の操作方法は、取扱説明書21ページ「停電時および故障時の応急処置」をご参照ください

⑥湯水電磁弁ユニットの取り付け

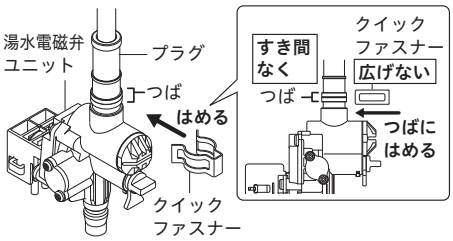
⑥-1 プラグのつばと湯水電磁弁ユニット(ストレーナが正面から見て右側を向くように)のつばがすき間なく合うまで差し込んでください。

⚠注意

プラグ先端のOリングに傷がつかないようにしてください。
(Oリングに傷がつくと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

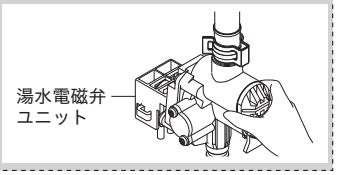


⑥-2 クイックファスナーをプラグと湯水電磁弁ユニットのつばにはめます。

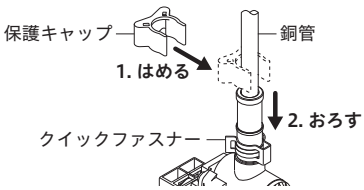


⚠注意

湯水電磁弁ユニットを下に引っぱって、抜けないことを確認してください。
(しっかりはまっていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

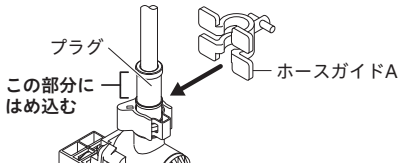


⑥-3 クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップは**銅管にはめてから、クイックファスナーまでおろします。**



⑦カプラーユニットの取り付け

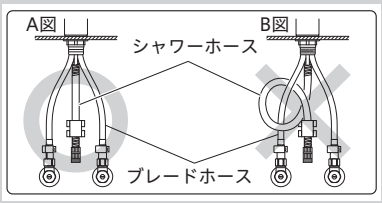
⑦-1 同梱のホースガイドAをプラグにはめ込みます。



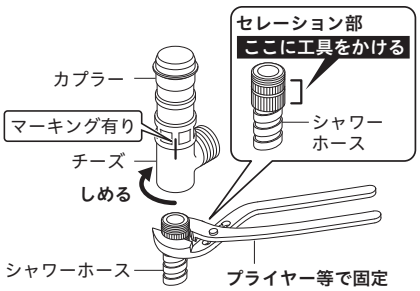
⑦-2 (1)同梱のホースガイドBをホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。
(2)ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースを上から通します。

⚠注意

固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。
(B図のように、ブレードホースに引っかけたり、ひねったりしないでください。シャワーホースが破損し水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



⑦-3 チーズとカプラーの接続が緩んでいないか確認してください。(確認用の赤色マーキング有り)緩んでいる場合はカプラー手締め後、約30度増し締めしてください。(締め付けトルクの目安は約1N・m)
カプラーユニットとシャワーホースを接続します。
カプラーユニット手締め後、約30度増し締めしてください。(締め付けトルクの目安は約1N・m)

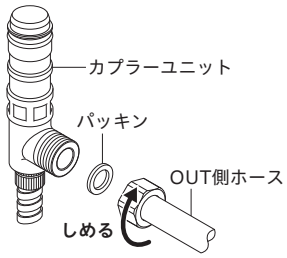


⚠注意

カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。
(水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
※カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ
※シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない
※シャワーホースはねじらない

⑧IN側ホースとの接続

カプラーユニットにOUT側ホースを接続します。

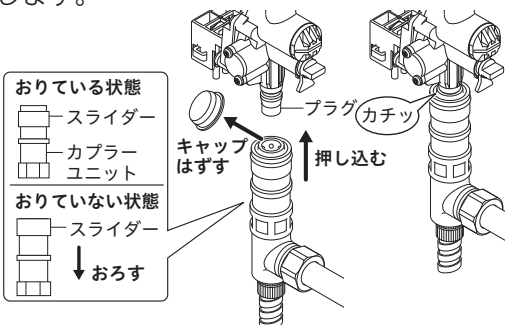


⚠注意

- 接続～は適切な工具(モンキー等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約7～8N・mです。
(締め付け不足や締め付け過ぎますと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- パッキンが入っていることを確認してください。
(パッキンが入っていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ゆるみがないように確実に締め付けてください。
(ゆるみがあると水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

⑨シャワーホースの接続

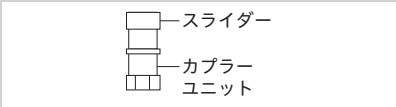
⑨-1 カプラーユニットのキャップをはずし、スライダーを下におろしてから、本体のプラグへカチッと音がするまで押し込みます。(スライダーがすでにおりている場合もあります。)取り付け後、カプラーユニットを引っぱってはずれないことを確認します。



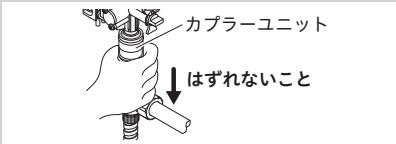
⚠注意

カプラーユニット取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。
(確実に接続されていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

• スライダーが上がっていること

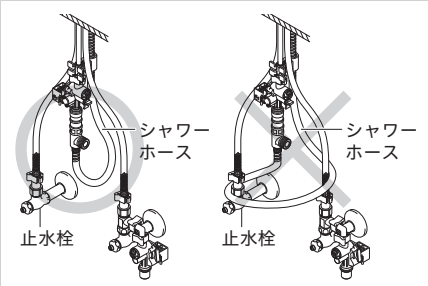


• カプラーユニットを真下に引っぱってはずれないこと



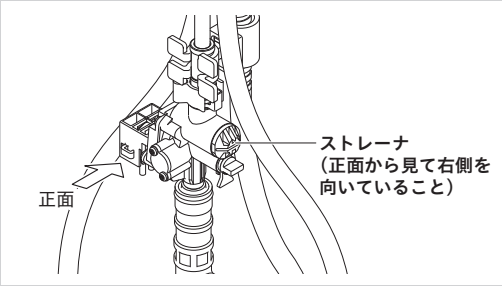
⚠注意

シャワーホースは止水栓に引っかけないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けてください。
(シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



⚠警告

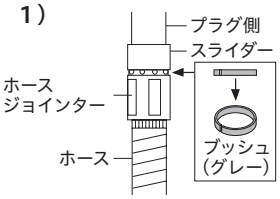
湯水電磁弁ユニットのストレーナが右を向いていることを確かめてください。
(ストレーナが右を向いていないと、コード類とシャワーホース・ブレードホースが絡まり、発火・ショート・感電の原因になります)



⑨-2 ホースジョインターに抜け止め用のブッシュを取り付ける。

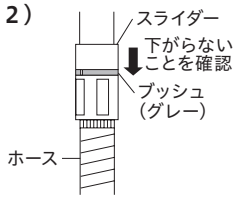
〈抜け止め用ブッシュの取り付け〉

1)



ブッシュをホースジョインターの隙間にしっかりとはめ込みます。
【お願い】
ブッシュは必要以上に広げないでください。樹脂製のため破損のおそれがあります。

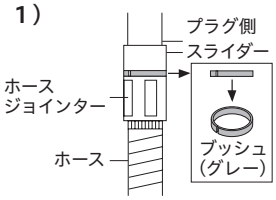
2)



ホースジョインターのスライダーが下がらないことを確認してください。
取り付け完了です。

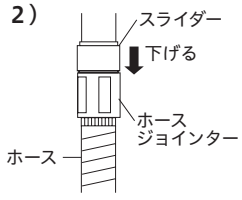
〈ホースジョインターからプラグを外す場合〉

1)



ホースジョインターからブッシュを外します。
【お願い】
ブッシュは必要以上に広げないでください。樹脂製のため破損のおそれがあります。

2)



ホースジョインターのスライダーを下げて、プラグを抜いてください。

⑨-3 ホースストッパーの取付
ホースストッパーをシャワーホースガイド端部から300mmの位置に取り付ける。

⚠注意

設置後、シャワーホースおよびホースストッパーが周りの銅管に干渉しないかご確認ください。
干渉する場合、銅管を干渉しない方向へ曲げてください。
シャワーヘッドを引き出し、シャワーホースがスムーズに動くことを確認してください。

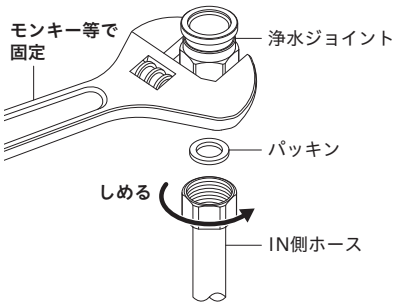
シンク下に水受け用タンクがある場合
シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。
(ホースとの接続の銅管部を少し曲げることにより調節できます)

⑩INホースとの接続

⑩-1 浄水ジョイントにIN側ホースを接続します。その際、浄水ジョイントをモンキーレンチ等で固定し締め付けてください。

⚠注意

接続は適切な工具(モンキー等)で締め付けてください。
締め付けトルクの目安は約7～8N・mです。
(締め付け不足や締め付け過ぎますと漏水の原因となります)

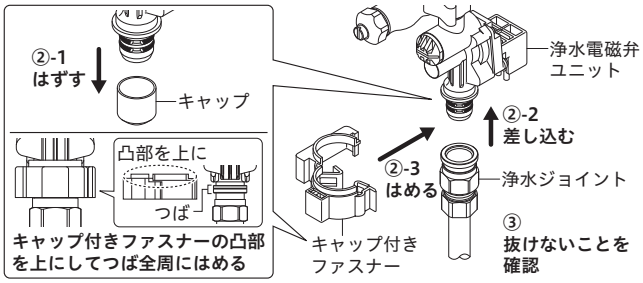


⑩-2 浄水電磁弁ユニットのキャップをはずした後、浄水ジョイントを浄水電磁弁ユニットに差し込み、キャップ付きファスナーで固定します。

※キャップ付きファスナーは凸部を上に向けてはめ込んでください。

⚠注意

キャップ付きファスナーの接続は、以下の内容に注意してください。
- すき間がないよう、確実に押し込む
- ファスナー取り付け後は、正しく取り付いていることを目視や鏡を使い確認する。
  (しっかりはまっていないと水漏れで家財などを濡らすおそれがあります)



⑪制御ボックスの取り付け

⑪-1 制御ボックスの取付位置を仮決めします。
制御ボックスコードが下から出る向きにしてください。
位置決めをする際、下記の条件を満たす場所であることを確認してください。

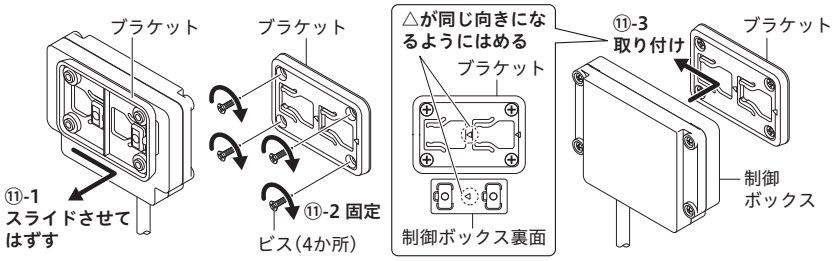
●板厚が10㎜以上ある
●制御ボックスコードの各コネクターおよびDCプラグが無理なく接続できる
●ACアダプターがコンセントに差し込みできる

⚠警告

- 背板など強度がある場所に取り付けてください。
  (制御ボックスが脱落し、故障の原因になります)
- 制御ボックスコードおよびACアダプターコードを背板にはわせた時、無理なく届く範囲で、底板(棚板)より高く水がかからない位置に取り付けてください。
  (接続部、配線部が断線して発火・ショート・感電の原因になります)

⑪-2 ブラケットを制御ボックスからはずし、ビスで背板に固定します。

⑪-3 ブラケットに制御ボックスを取り付けます。
ブラケットと制御ボックス裏面の△が同じ向きになるようにはめ、カチッとなるまでスライドしてください。



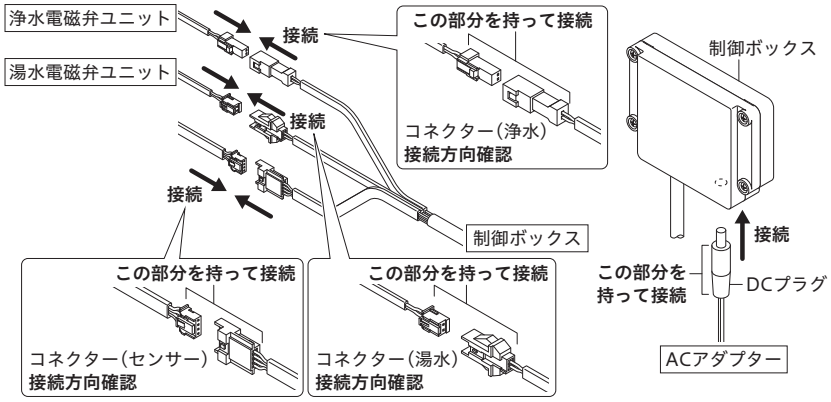
⑫コネクターの接続

制御ボックスのコネクター(3か所)とDCプラグをそれぞれ接続します。

【お願い】各接続部は確実に差し込み、ねじったり引っぱったりしないでください。
接続部および配線部が断線することがあります。

⚠警告

各接続部は確実に差し込み、ねじったり引っ張ったりしないでください。
(接続部、配線部が断線して発火・ショート・感電の原因になります)



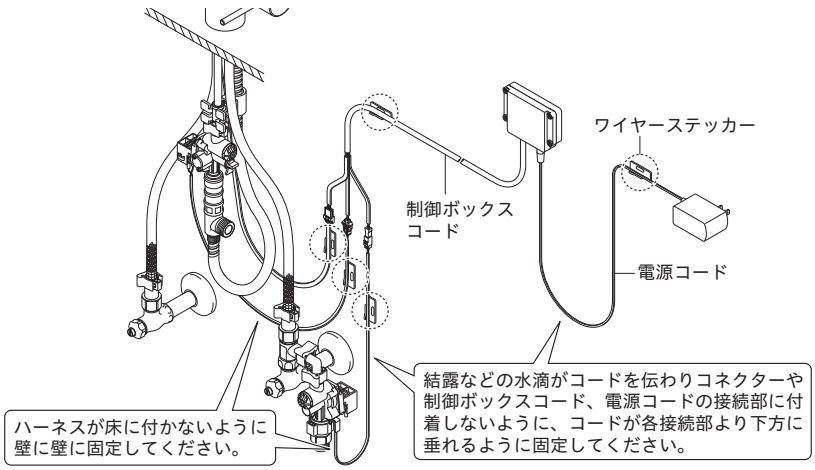
⑬ハーネス、制御ボックスコード、電源コードの固定

キャビネットの背板にワイヤーステッカーを取り付けます。
ワイヤーステッカーでハーネスや制御ボックスコード、電源コードを壁に固定します。

※ワイヤーステッカーは10個同梱していますので、必要に応じ固定してください。
制御ボックスコード、電源コードは床に付かないように壁に固定してください。

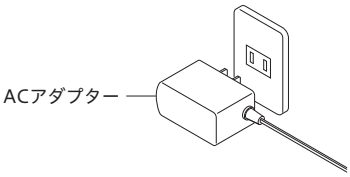
⚠警告

コード類とブレードホース・シャワーホース等が接触したり絡んだりしないようにしてください。
(発火・ショート・感電の原因になります)



⑭ACアダプターの差し込み
ACアダプターをコンセントに差し込んでください。

⑮スタートアップガイドの取り付け
スタートアップガイドを製品に吊り下げてください。

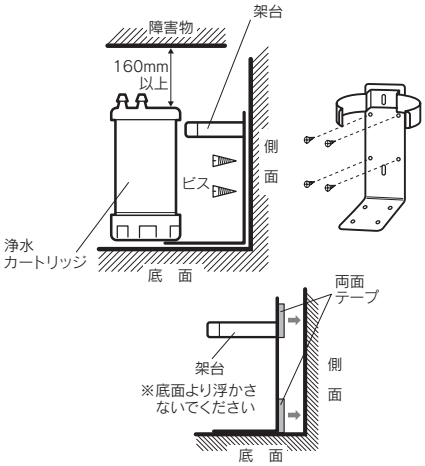


4-3．浄水カートリッジの取付方法

■架台の据付方法

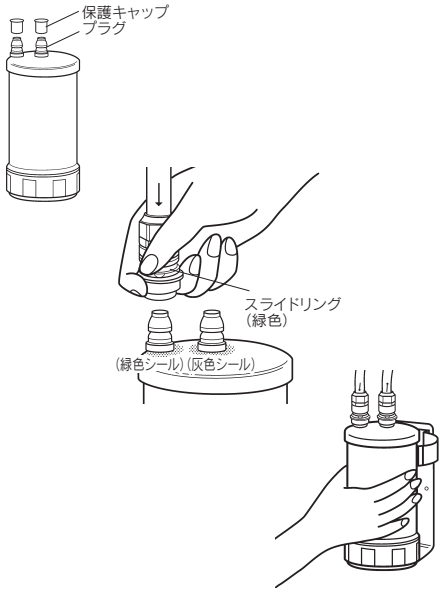
〈ビス止めの場合〉
シンク下が木製の場合、付属のビス(4本)で固定する。
(木材が薄い場合には芯材のあるところに固定してください)

〈両面テープの場合〉
ステンレス、ホーローなど、ビス止めが不可能な場合に使用する。
(接着面の油分、水分、ほこりをよく除去し、架台をシンク下の底面に合わせ、側面に強く押さえて固定してください)



■浄水カートリッジの取付方法

①プラグ先端の保護キャップを外す。
②シールとスライドリングの色を合わせて確実に接続する。
③架台に浄水カートリッジを固定する。
- ホースが邪魔になる場合には結束バンドで固定ください。ただしバンドは締めすぎないように注意してください。



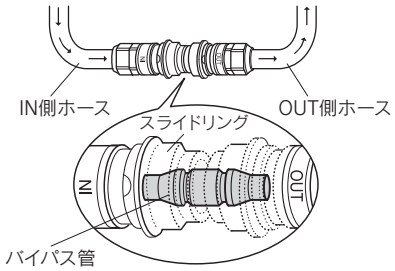
⚠注意

- ワンタッチジョイントの接続はプラグがいちばん奥まで差し込まれているか、正しく接続されているか、再度確認してください。
(水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。
間違って接続した場合、黒い水[活性炭]が出たり破損や水漏れの原因になります)
- 浄水カートリッジを固定する際は、ホースが折れ曲がったりねじれたりしないようにしてください。またホースや浄水カートリッジが給湯配管に触れないようにしてください。
(破損や水漏れの原因になります)

★ご使用開始まで時間がかかる場合

付属部品「バイパス管」を接続してください

- お客様が、実際にご使用になるまで時間がかかる場合、浄水カートリッジは接続せず、バイパス管でホースを接続して通水テストを行ってください。



5．据付後の点検

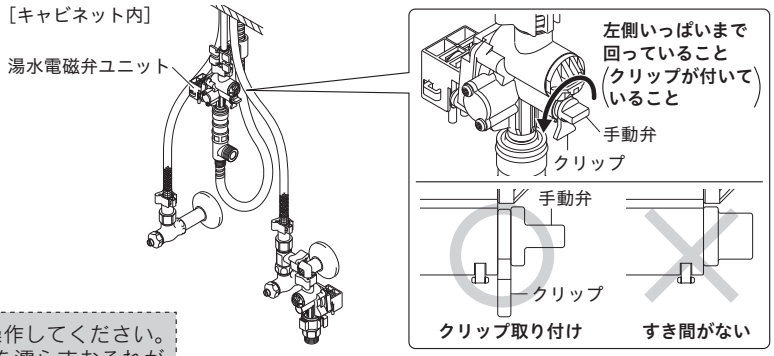
※管工事業者に依頼してください。

5-1．通水確認

⚠注意

水栓取り付け後、通水して湯水の出し止めを５～６回繰り返し、配管接続部および水栓から水漏れがないことを確認してください。
（水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります）

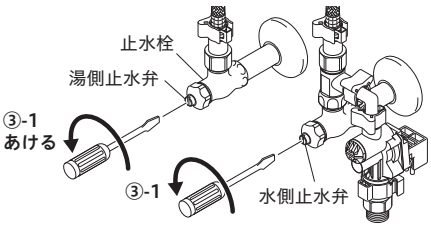
①ACアダプターがコンセントに正しく差し込まれていることを確認します。
②湯水電磁弁ユニットの手動弁が左側いっぱいまで回っていること(クリップが付いていること)を確認します。

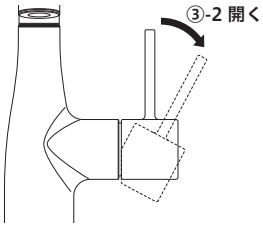


⚠注意

手動弁は工具を使わず手でゆっくりと操作してください。
（手動弁が破損し水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります）

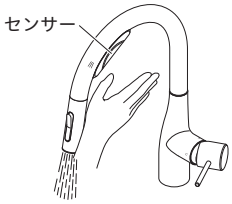
③湯水の止水弁を開き、レバーハンドルを開きます。



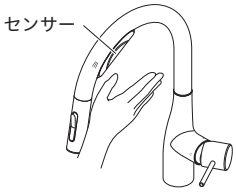


④センサーの保護フィルムを剥がし、センサーに手をかざして、レバーハンドルを水、混合、湯の各位置で吐水・止水を確認します。

吐水する
センサーに手をかざすと、自動的に吐水します。



止水する
センサーに手をかざすと、自動的に止水します。



⑤センサーまたはレバーハンドルを閉じて止水し、レバーハンドルを水、混合、湯の各位置に動かし接続部からの水漏れがないことを確認してください。

5-2．シャワーホース引き出しの確認

- シャワーホースが止水栓などに、引っかからないように施工してください。
- シャワーホースを出し入れしたとき、止水栓などに引っかかり、引き出せなくならないか確認してください。

5-3．引出しの動作確認（引出し式キャビネットをご使用の場合）

⚠警告

水栓を取り付け後、キャビネットの引出しを開閉し、コード類が引出し等と干渉したり絡まったりしていないことを確認してください。
（断線の原因になり発火・ショート・感電のおそれがあります）

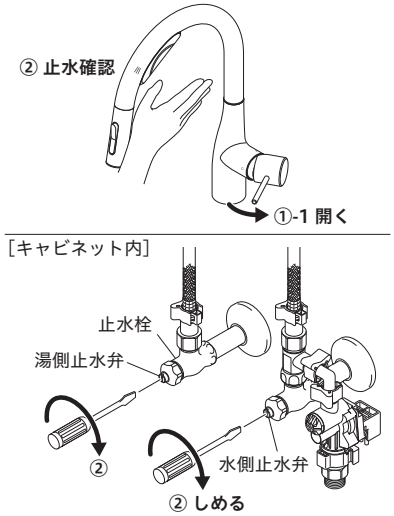
5-4．電磁弁部ストレーナ清掃のお願い

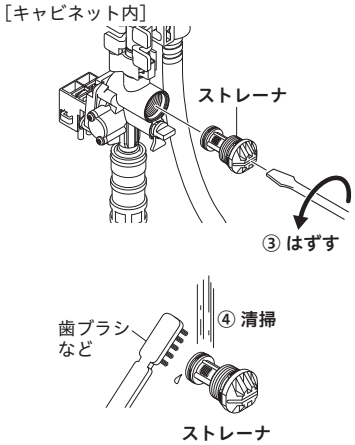
湯水および浄水電磁弁ユニットのストレーナは施工後必ず清掃してください。
電磁弁ユニットのストレーナにゴミ等が詰まりますと吐水量が少なくなる場合があります。

①レバーハンドルを開き、湯水の止水弁(2か所)または元栓をしっかりしめます。
②湯水センサーに手をかざして感知させ、吐水しないことを確認します。
③ストレーナを反時計回りに回し、取りはずします。
④ゴミ・水アカ等を洗い流します。

⚠注意

ストレーナの清掃は、止水弁で必ず止水してから行ってください。
（ストレーナをいきなりはずしますと高温の湯が噴き出してやけどをしたり水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります）





清掃後は、はずした逆の手順で組み立て必ず水漏れが無いことを確認してください。

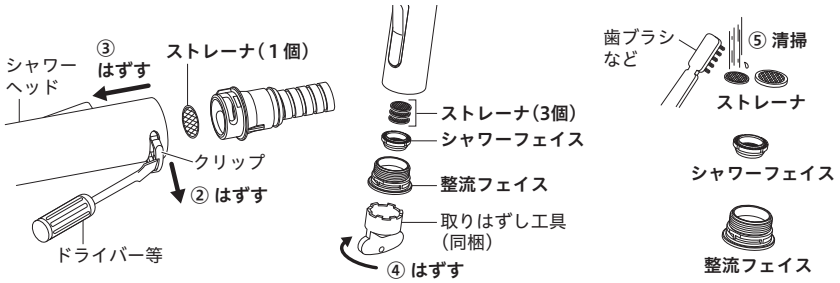
⚠注意

ストレーナは過剰に締め込み過ぎないでください。
また、締め込みに電動工具を使用しないでください。
（破損して水漏れにより家財など濡らすおそれがあります）

5-5．シャワーフェイス・整流フェイス・ストレーナ清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・整流フェイス・ストレーナは施工後必ず清掃してください。シャワーフェイス・整流フェイス・ストレーナにゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりします。

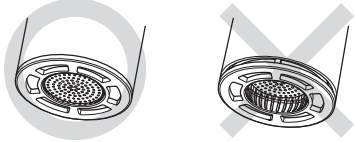
①湯水全開で20～30秒吐水させます。
②ドライバーなどでクリップをはずします。
③シャワーヘッドをはずし、ストレーナ(１個)を取りはずします。
④同梱の工具で整流フェイスをはずして、シャワーフェイス・ストレーナ(３個)を取りはずします。
⑤シャワーフェイス・整流フェイス・ストレーナをブラシで水洗いします。



〈清掃後の組み立て〉

清掃後は、はずした逆の手順で組み立て必ず水漏れが無いことを確認してください。

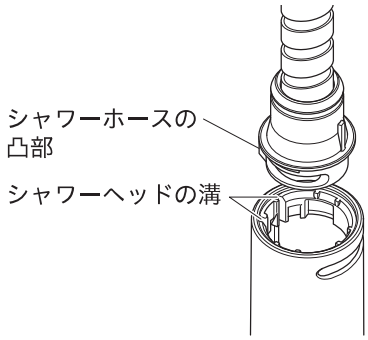
- 整流フェイスを締め込むときは、止まるまで締め込んでください。(約3回転程)
- 組立後、シャワーフェイスが下図のように取り付けされていることを確認してください。



シャワーフェイスが奥まで組み込まれていないため、再度、シャワーフェイスと整流フェイスの位置を合わせてはめ直してください。

【お願い】止まるまで締め込んだら、それ以上締め込まないでください。破損するおそれがあります。(締め付け不足の場合、漏水や切換不良の原因になります)

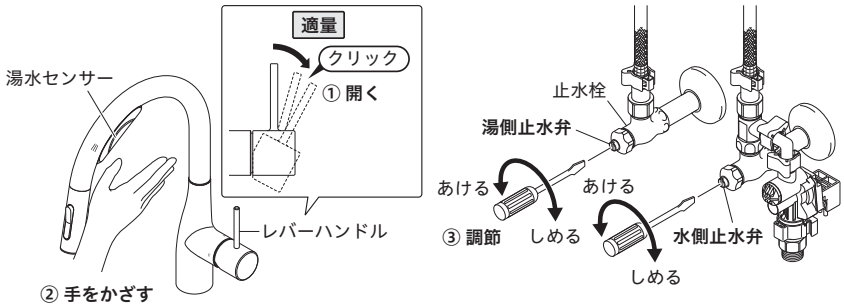
- シャワーホースをシャワーヘッドにはめる際は、位置決めがあります。シャワーホースの凸部をシャワーヘッドの溝に合わせてはめてください。



5-6．止水栓による流量の調節方法

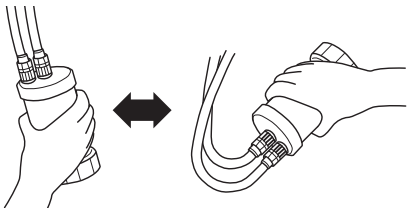
流量が多すぎる場合などは、下記の方法で止水弁を操作して流量を調節してください。

① レバーハンドル をクリック手前まで開きます。
② 湯水センサーを感知させます。
③ 止水弁で適量(湯側・水側それぞれが5.0L/min程度)になるように流量を調節します。
止水弁を時計回りに回すと流量が少なくなり、いっぱいまで回すと止水します。
また、反時計回りに回すと流量が多くなり、いっぱいまで回すと最大流量になります。
※水圧が低く、クリック手前で適量が得られない場合は、止水弁を最大流量にしてください。
※水側止水弁で水の流量を調節すると、浄水の流量も同時に変動します。



5-7．浄水カートリッジの空気を抜く〈浄水カートリッジを接続している場合〉

- **浄水の水切れを良くするため、浄水を流しながら浄水カートリッジを逆さにして数回振って空気を抜いてください。**



⚠注意

全ての施工が完了した後、必ずレバーハンドルを閉じてください。
（水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります）

●お客様がすぐに使用しない場合は、必ずコンセントからACアダプターを抜いてください。

6．最終点検

- □ シャワーホースを引き出したとき、引っかかりはないですか？
- □ 配管内の洗浄を実施しましたか？
- □ 水漏れはないですか？
- □ 温度はレバーハンドルが混合水の位置で、適温ですか？
- □ 流量は適切ですか？
- □ シャワーへの切替はスムーズにできましたか？
- □ スタートアップガイドを製品に吊り下げてられてますか？
- □ この据付説明書は「取扱説明書」、「ノズル取り外し工具」、「バイパス管」とともにお客様にお渡しして、大切に保管していただくように説明してください。
手渡しできない場合、据付終了後、製品の近くに置いてください。

三菱ケミカル・クリンスイ株式会社

製品に関するお問い合わせは下記までお願いします

クリンスイサービスセンター U係

0120-328-432

受付時間／平日10：00～17：00(土・日・祝日10：00～16：00)